

あの時
台風で学んだ沢山の事(3)年(4)組(32)番
氏名(石田 沙織)

あれから一年たった今日、十月二十四日。

先生の話、先輩の作文などを聞いて、改めてあの日の辛い悪夢のような豊岡を思い出しました。

私は、床上七〇センチの被害にあり、家に帰ることも住むことも出来ず、母の家の実家からと母曰く家の片付けを^{通っていたため学校は}し、一週間程行かせませんでした。

あの家には、私の家族のたくさん思い出が詰まっていたのに、今ではサウ地、家の中のモノも全て捨てました。とても惜しむ程^{捨てるのも}

大切なモノまで一夜でうば、た台風にあの時私は絶望と、うらみを感じました。でも一年た、た今では、どんなに辛くても家族が大切に人々と^{離れて}てもお互いに励まし合、て支え合、て、力強く生きていくこと。自分の事のように私たちの事を思い、励ましてくれたり、心配してくれたり、手伝ってくれた。仲間の大切さと温かさ。自然のこわさ。そして家族の大切さ。生きていれる、比喩といれる、ことの幸せ。失ったモノも多かつたけど、それ以上に、大切なモノをたくさん教えてくれたこの台風は、忘れない面目をつむりたい面いっぱいあるけど、忘れちゃいけない、と思いました。

今こうやって友達や大切な人と会えること、話せること、家族と暮らせること、全てあたり前だけど、こんな当たり前こそが、^{今の}自分自身の一番の幸せです。

「生きる」って、こうゆう事で、とても素晴らしい事で、幸せな事、ほんだって思うことができたのはあの台風で、支えられたかもしれなよい……
沢山の人の